

1 情勢報告

J A津野山シントウ部会現地検討会が開催されました

シントウの誘引方法を
実演する営農指導員

土佐甘とう現地講習会

6月7日、J A津野山シントウ部会の現地検討会が午前津野町芳生野（シントウ）、午後から梶原町仲洞（土佐甘とう）の2ヶ所で開催されました。

この日はカラリと晴れた暑い日でしたが、シントウは生産者9名、土佐甘とうは20名の方が参加されました。会では振興センターから今年の気象状況を振り返り生育状況を確認し、梅雨時期のかん水で注意すること呼びかけました。また、J A営農指導員からは収穫初期の基本的な管理について、誘引や整枝作業を実演しながら講習を行いました。

メモや写真を撮る新規栽培者の方の姿が見られたり、生産者同士で熱のこもった意見交換が行われるなど活発な現地検討会になりました。

振興センターでは、今後もJ Aと協力し、技術確立、生産者の方の技術習得支援を行っていきます。



収穫間近の土佐甘とう

「JA津野山園芸部ユズ部会」総会が開催されました



ユズ部会長の挨拶

6月8日に「JA津野山園芸部ユズ部会」総会が開催されました。

JA津野山はJA馬路村と契約を結び、加工用ユズの供給産地づくりに取り組んでいます。

新植したユズもわずかではありますが去年度より多く出荷できました。また、既存のユズ園からは10.4 tの出荷がありました。

総会には約30名の出席があり、JA馬路村への供給産地として必要な栽培技術の向上、安定出荷へ取り組んで行く事が再確認されました。

振興センターでは、今後も技術指導等を行いJA津野山と協力しながらユズの産地化を進めていきます。

J A津野山ミョウガ部会現地検討会が開催されました



配布資料の説明



6月6日にJ A津野山ミョウガ部会現地検討会が津野町岩土、宮谷の2ヶ所で開催されました。

今回の検討会では、養液栽培10戸、土耕栽培7戸の方々が参加されました。検討会では、振興センターからは今年の6月までと、過去2年間の気象状況についての資料を提示し、それをもとに、今後の水管理について生産者と検討を行いました。

また「他産地の視察を行おう」という声上がり、7月には部会で視察を行う事が決まるなど生産意欲の向上が感じられました。

振興センターでは、今後もJ Aと協力し、ミョウガ部会全体の収量向上と、部会の経営安定を目指して、生産者の技術確立・向上を支援していきます。

集落リーダー研修を開催しました



集落リーダー研修

6月7日、中土佐町役場（大野見）にて集落営農に係る「集落リーダー研修」を開催しました。この取り組みは、集落リーダーの育成を目的に、本年から国、県の制度、事業関係の情報共有も含め、講座制勉強会の位置づけで行っています。

第1回目は、中国四国農政局高知地域支援センター、県農地・担い手対策課から講師を招き、「人・農地プランに係るアンケートの活用事例等について」、また、須崎農業振興センターからは「集落営農とは」について説明を行いました。

会には、集落営農に関心のある集落からの参加があるなど新たな集落営農の動きが出てきました。農業振興センターでは、講座制勉強会や集落座談会などを行う中で、集落のリーダー育成を行っていきます。

J A土佐くろしお雨よけシントウ現地検討会が開催されました



現地検討会の様子
（葉山）

J A土佐くろしお管内において、雨よけシントウの現地検討会が、5月23日に中土佐町上ノ加江で、6月14日に津野町葉山の2ヶ所にわけて開催されました。

会では今年の気象状況、これからの栽培管理のポイント、土着天敵を使った新たな取り組みなどについての検討がなされました。

特に栽培管理のポイントの中で、主枝の摘心、側枝の摘心方法については、生産者の方・J A・振興センターそれぞれの意見を出し合い、実際に樹を整枝して理想的な樹形を共有することができ、参加者全員の技術向上へとつながる検討会になりました。

今後とも振興センターはJ Aと協力して、生産者の技術向上の支援を行っていきます。

農業改良普及推進協議会を開催しました。



農業改良普及推進
協議会（第1回）

平成24年度の農業改良普及推進協議会を6月1日、須崎市立文化会館で開催し、今年度の普及指導計画について協議会委員と意見交換を行いました。

普及指導計画の今年度の3つの重点課題には、「重油代替加温機を入れる際の注意点をデータ取りし指導して欲しい。」「高齢化が進む中山間では高品質・高収量は厳しい。」「集落営農組織の組織運営や米ナスの栽培に経験が浅い。」など、地域の現状や普及活動への要望が委員からあり、これを踏まえて意見交換を行い課題を共有しました。

2月には2回目を開催し、今年度の活動実績と次年度の普及指導活動計画についてご意見を頂く予定です。

鳥獣害対策重点集落（梶原町松原6/5、津野町北川6/11）の聞き取り調査、住民との意見交換を行いました。

松原地区



平成24年度から実施される「野生鳥獣に強い集落づくり事業」の重点地区で、鳥獣害対策課、町、四国自然史科学研究センター、地域支援企画員、農業振興センター等関係機関に住民代表を交え、被害の実態や現在講じている対策などについて話し合いました。

地域では鳥獣の被害が広がっており、松原、北川両地区とも防護柵などのハード面での対策に期待が寄せられています。

一方ソフト対策についてはまだこれからという状況もありますので、振興センターは、今後、地域内での被害対策の仕組みづくりを支援していきます。

北川地区

